

第17回 日台文化交流 青少年スカラシップ2020



「日台文化交流 青少年スカラシップ」は、日台の架け橋となる若者の育成を目指します

産経新聞社およびフジサンケイ ビジネスアイを発行する日本工業新聞社は、日本と台湾の文化交流促進を目指す「日台文化交流 青少年スカラシップ」を実施します。

学生から「作文」、「スピーチ」を募集し、両部門の中から選ばれた大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行に招待し、日台間の相互理解と相互交流を深めます。

日本と台湾は歴史的なつながりが深く、双方の先人たちのたゆまぬ営みによって、ともに繁栄を遂げてきました。最近では金融や先端技術から農産物までさまざまな経済交流やマンガ・娯楽などの文化を通じて台湾の多くの人々が日本に強い関心を寄せており、世界の中でも最も親日家が多い土地柄でもあります。

本企画では、日本の若い世代が現地での学校訪問や、日本統治時代に日本語教育を受けた「台湾日本語世代」との交流など、幅広い年齢層の人々とのコミュニケーションを通して外から日本を見つめ直す機会を提供します。これにより、日台の新しい世代による友好関係を促進するとともに、アジア、世界で活躍できる人材の発掘と育成を目指します。

大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行にご招待！

募集要項 — 作文、スピーチを募集

【応募資格】

作文部門: 中学校、高等学校(全日制、定時制、通信制)、盲・ろう・養護学校高等部、高等専門学校、短期大学、大学、大学院、専門学校に在籍する生徒・学生で29歳以下。

スピーチ部門: 関東圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県、群馬県、栃木県)にある高校、大学、大学院、専門学校に在籍する生徒・学生で29歳以下。2020年2月10日(月)に都内で実施する最終審査会に参加できる方。

※両部門とも日本国籍を有していることが条件。

【点数】

各部門1人1点に限ります。(必ず応募用紙を添付してください)
※両部門の応募は不可

【作品送付先】

〒135-0033 東京都江東区深川2-12-4-201
(株)LSプランニング 内 日台スカラシップ事務局分室
TEL. 03-5621-7850

【締め切り】2020年1月14日(火) 必着

【発表】

2020年2月末までにフジサンケイ ビジネスアイ、産経新聞紙上に発表します。また応募者のEメールにも結果をお送りします。

※大賞～優秀賞の受賞者は2月10日(月)以降、事務局よりご連絡します。

【諸注意】応募作品は未発表のものに限ります。

- *奨励賞までの著作権は主催者に帰属します。
- *優秀作品は新聞やWeb等で公表します。
- *資料などを引用する場合は出典を明記してください。
- *応募作品は返却しません。

【事務局】(お問い合わせ)

産経新聞東京本社 メディア営業局内
「日台スカラシップ」事務局
〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2
TEL. 03-3275-8656(土日祝日を除く、10:00～18:00)
FAX. 03-3275-8932
E-mail. scholarship@sankei.co.jp

【授賞式】2020年3月24日(火)予定

※大賞～優秀賞の受賞者と保護者を都内で行われる授賞式にご招待します。

【台湾研修旅行実施予定】

2020年3月24日(火)～3月28日(土) 4泊5日予定

賞 — 大賞・優秀賞受賞者を台湾研修旅行にご招待

■大賞(台北駐日経済文化代表処 代表賞) 1名
表彰状、台湾研修旅行、奨学金5万円

■審査委員長特別賞 1名
表彰状、台湾研修旅行

■優秀賞 12名程度
表彰状、台湾研修旅行

■奨励賞 20名程度
表彰状

■佳作 数名程度
表彰状

※各賞とも、両部門の中から選出します。

募集作品の規定事項

※未発表のものに限ります。資料などを引用する場合は出典を明記してください。

■作文部門【日本語】

テーマ: 台湾に関すること
タイトル: ご自身で考えたタイトルを作品の応募用紙に記入してください。
文字数: 2000字以内
書式: A4用紙縦向き、横書き 20字×20行(推奨)
※パソコン、手書きはどちらでも可

■スピーチ部門【中国語・台湾語】

テーマ: 台湾に関すること
タイトル: ご自身で考えたタイトルを作品の応募用紙に記入してください。
論文審査: 主張する内容を中国語(繁体字を推奨)で800字以内の論文にまとめて応募ください。また、日本語訳も添付してください。
本審査: 論文審査通過者を対象に中国語または台湾語でスピーチしていただきます。(両方可)
時間はスピーチ3分、審査員との質疑応答2分の計5分です。
配点は論旨30点、態度声調20点、熱意20点、即興(質疑応答)30点で合計100点。審査委員の合議で各賞を決定します。

*本審査日時: 2020年2月10日(月) 予定

(詳細は別途ご連絡いたします)

*本審査会場: 東京都内(詳細は別途ご連絡いたします)

前回報告書および作品集「第16回研修旅行の記録」はホームページ

www.sankeisquare.com/scholarship

でご覧いただけます。

研修旅行予定

※予定は変更となる場合があります。

初日

- ・授賞式(大手町サンケイプラザ)
- ・往路 台湾へ

2日目

- ・総統府 表敬訪問
- ・外交部 表敬訪問
- ・台湾日本関係協会 表敬訪問
- ・教育部 表敬訪問
- ・台湾歌壇との懇談会



3日目

- ・烏山頭ダム/八田與一記念館訪問
- ・台南観光



4日目

- ・友愛グループとの懇談会
- ・学校訪問
- ・ホームステイ



5日目

- ・台北観光
- ・復路 日本へ

他では経験できない貴重な研修旅行となります。(大賞、特別賞、優秀賞の受賞者)

総統府への表敬訪問や日本語世代との懇談会、現地校との交流など

第16回参加者の感想文

※学校名・学年は2019年3月時のもの

橋本 真那 文教大学付属高等学校 3年

この6日間、日台文化交流のために何ができるか、という問いに向き合ってきました。そして様々な方々との交流させて頂く中で、その答えに繋がるヒントが一人一人の言葉に隠されているようでした。

中でも日本語世代の友愛グループや台湾歌壇の皆さんとの交流は、貴重なものとなりました。日本人以上に日本の文化を知り、愛し、その美しさを継承しようと努力されている姿に圧倒されると共に、自身の無知を思い知らされました。台湾は「伝統を守りつつ、進化する国」だと聞いたことがありますが、まさにその通りです。

まずは日本人として日本について知っておくべきことが沢山あると感じました。そして日台の歴史関係についても、より学びを深める必要があると思いました。この問いの正解は、ないと思います。しかしながらどのような形であれ、将来日台文化交流に良い影響を与えられるよう、前に進んでいきたいと思っています。ありがとうございました。

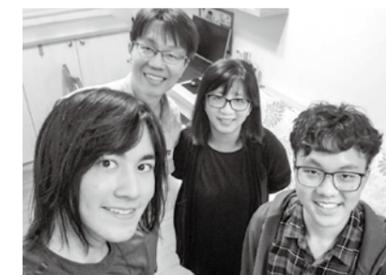


小川 晃司 アンジェロ 聖学院高等学校 3年

この研修旅行の存在についてだけでは2人のOBや先生から聞いたということだけで応募したことがきっかけでした。そして、このプログラムの内容は私の想像を超えたものであり、これから台湾へ留学する私にとっては素晴らしい研修旅行となりました。

まず総統府や教育部などにて表敬訪問した際は挨拶ができたということだけではなく、私が興味のある分野に関する質問を直接できたということに光栄に思いました。

また、ホームステイでは現地の高中生と密に関わることはなかなかできるのではなく、自分の中国語能力を初めて自分とほぼ同世代に台湾人を相手に使うことができました。そこでは台湾人の高校生までの教育システム及び現在の彼らから見た教育事情や社会問題、日本のイメージなどを生の声で聞くことができました。



最後に、今回の旅行の仲間との出会いを大切にしながら過ごしたいです。このような普通は決してできない6日間を過ごせたことを感謝しています。



審査委員

(敬称略・順不同)

【審査委員長】渡辺 利夫(拓殖大学 学事顧問)

【作文部門審査委員】

- 張 温 恭 (台北駐日経済文化代表處 広報部 次長)
- さかもと未明 (漫画家、作家、コメンテーター)
- 室 館 勲 (株式会社キャリアコンサルティング 代表取締役)
- 林 翠 儀 (自由時報 東京特派員)
- 河 崎 真 澄 (産経新聞社 論説委員)

【スピーチ部門審査委員】

- 顧 欽 誠 (台北駐日経済文化代表處 広報部 部長)
- 馮 彦 國 (横浜中華学院 校長)
- 呉 育 珊 (東京中華学校 教諭)
- 林 翠 儀 (自由時報 東京特派員)
- 河 崎 真 澄 (産経新聞社 論説委員)